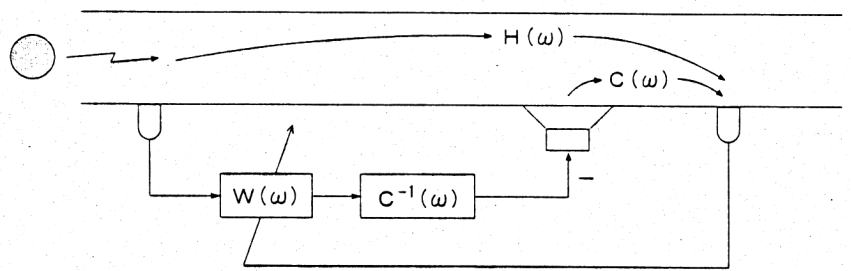
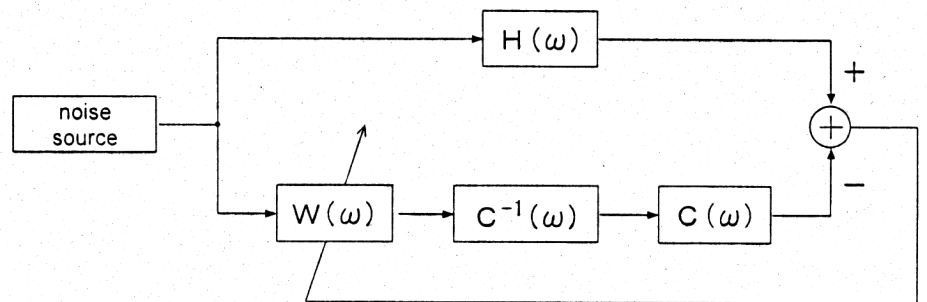


=====
 filtered-x ダクト消音システムの構成 (3 / 9)

$C(\omega)$ の逆特性のフィルタ
 $C^{-1}(\omega)$ を用いれば特性
 補正が可能

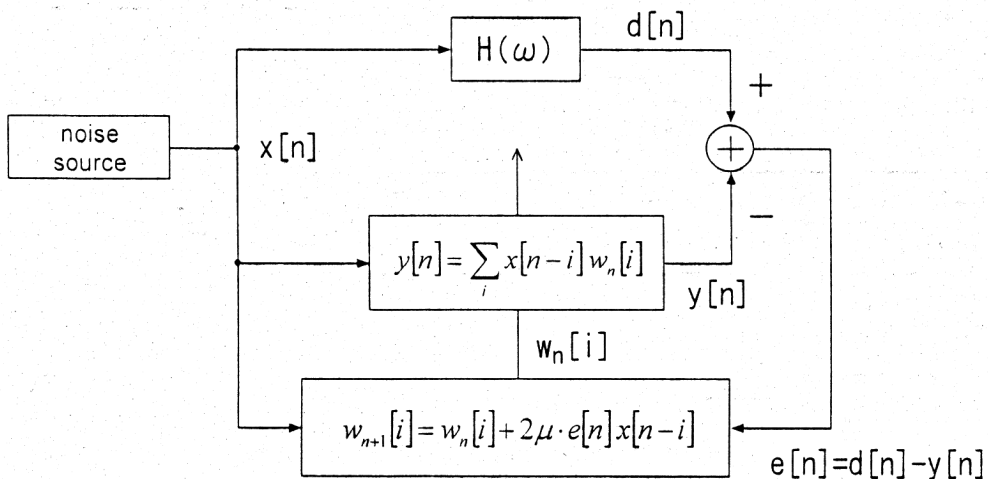


しかし $C^{-1}(\omega)$ の設計は
 困難 (高次のデジタル・
 フィルタ --> 遅延大)



=====
 filtered-x ダクト消音システムの構成 (4 / 9)

実際にダクト消音に用いられている filtered-x アルゴリズムの導出の
 ために LMS 適応フィルタ (システム同定の構成) を下図のように
 細かく分解して考える



=====
 適応フィルタ = デジタルフィルタ (FIR) + フィルタ係数更新処理